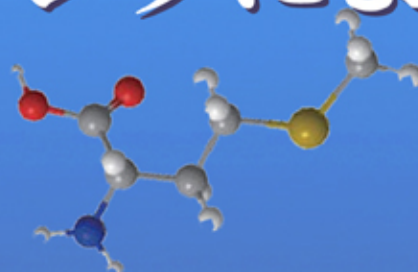




長崎大学グローバルCOEプログラム特別セミナー

PET 分子イメージングによる 創薬への展開



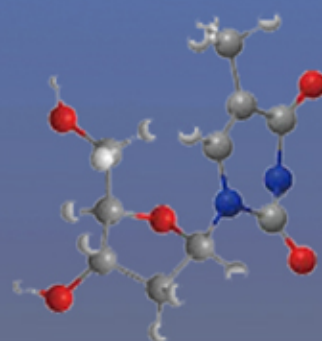
動物やヒトが生きている状態で生体内物質や創薬候補物質をポジトロン放出核種（放射性同位元素の一種）によって標識し Positron Emission Tomography (PET) によって画像化する分子イメージングが開発された。この分子イメージング手法は、がんに限らず、 ^{18}F -FDG が炎症部位に集積しやすい特徴を活用したアルツハイマー病、関節リウマチ、動脈硬化や感染症などの病態解明のために応用されつつある。

しかし、企業から購入できる ^{18}F -FDG のみの分子イメージングでは限界があり、サイクロトロンを設置して ^{11}C 、 ^{18}F 、 ^{64}Cu などのポジトロン核種をバイオマーカー分子に標識する機器を整備することにより、分子イメージング技術を病態解明や創薬へさらに飛躍的に展開できるようになる。今回は創薬候補物質の有効性や安全性の評価にこの新しい分子イメージングを活用する世界的な動向を紹介したい。



独立行政法人理化学研究所 分子イメージング科学研究センター
コーディネーター 矢野恒夫 先生

1980年 大阪大学大学院博士課程（工学博士、合成化学）修了後、住友化学にて医薬品開発事業に従事。
2005年より JST にて研究プログラム担当、2007年より理化学研究所分子イメージング科学研究センターにて創薬研究を担当している。



日時：平成23年9月12日(月)
17時30分～18時30分

会場：長崎大学熱帯医学研究所
1階 大会議室

